

江源氏禮

十七

N10
7A
Vol 17

部	地
番号	123
年月	10
漢	漢中



寄	明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名
贈	大正七年六月八日

江源武鑑卷第十七

元龜四癸卯年今年冬改之号天正元年



正月小
朔日ヨリ十五日ニ至テ觀音城ニテノ郷作
法例年ノコトニ五日ノ間天氣晴ル
十六日江東八幡佐々木御社等へ今日屋形
御代參ヲ立ラル依御病氣ナリイニ夕旗頭
等年始ノ御礼ハナニ病氣ノ故ニ如此
十九日兼禎公ノ二男大原次郎賢未勢州ヨリ

甲州へ下テ武田ヲ頼ニテ下ラルノヨシ今日
鯨江權兵衛尉屋形へ申上ルト也又説ニ云
三好義次大原賢永ヲ頼テ甲州へヤルトモ
云其旨ハ不知依テ日記ニト、メス
同日濃州岐阜ヨリ信長ノ使節來ル狀アリ
舊冬遠州味方原ニテ武田信玄入道父子ト
信長一戰ヲトケ大利ヲ得タルトノ狀ナリ
別ニ注文アリ去冬十二月廿二日ノ合戦ナリ
此合戦ニ信玄キスヲ蒙テ落馬スル事アリ

是又信長方ニ討死シタル共カクスト云遠國
ノ事ナルハ説々ニシテ其實ヲ不知依テ委ク
日記ニト、メス且余殿附ス
廿一日屋形依病氣御名代トシテ平井加賀
守上洛ス
同日越後長尾謙信ヨリ使節來ル依密狀
其ヤサス又此不記
二月小
四月屋形病氣ニ付テ公方ヨリ上使下向ス

屋形上使ニ對面ス上使松原右馬頭密談ス
ル事アリ屋形兼引ナキヨシナリ其ニサイイシ
旗頭等ハ不知日記ニトムル事ナシ
廿三日若州武田大膳大夫義統江東ニ來テ
觀音城ヘアカラル屋形病氣ノ故ニ對面セ
ス武田義統ムナシク退テ進藤山城守カ居
城木濱城ニ十日余逗留ス

三月大
朔日屋形又舎弟和田山ノ實頼室町殿上意

ニ依テ今日上洛目加多攝津守山崎源太左
衛門兩人ヲ屋形ヨリサシクヘラル
三日佐々木御祭礼例年ノコトニ屋形ノ御
前ヨリ御祈禱ノタメニ金銀ノ御幣十四本
奉納シ玉フ
八月屋形ノ舎弟和田山ノ實頼京都ヨリ江
東ヘカヘラル
同日ニ觀音城ヘ出仕有テ今度室町殿ヨリ
右京大夫ニ被仰付殊御諱字ヲ賜テ義頼ニ

成ルノヨシヲ屋形へ言上アル屋形ノ曰室町
殿御下心アリト計仰出テ余言ナシ
十九日洪水江陽ノ所々ノ河水九合ニ成テ
田畠等多損ス野湏川ヨリ如牛ナル物ハイ
アカリテ落合ノ堤ニテ鳴其聲モニ夕牛ノ
鳴カコトニ黒雲下テ彼牛ノ如キ物ヲトリ
卷テ虚空ニアカル種々ノ説ヲ云前代未聞ノ
珍事共ナリ皇姓曰リヤコトヘト
晦日平井道覺入道卒ス行年六十三歳屋形

ノ御伽ノ衆也此入道ハ儒道ニ達シタル人
ナリ平井傳ト云儒道ノ受納ニヤウアリ

正月四月小

朔日松永彈正少弼通秀息右衛門佐室町殿
ハ忠義致シ三好カ殘族ヲ誅伐スヘキノヨシ
以舊冬ヨリ度々申上ルトイヘ共室町殿更
ニ御兼引ノ義ナシ今春モ度々上野中務大
夫清信ヲ以テ申上ルニ依テ室町殿ヨリ今
日細井右近大夫ヲ上使トシテ江州へ廿二

コサル屋形病氣ノ間上使ニ對面セス平井
加賀守ヲ以テ信長へ評義可有ノヨシヲ仰
出サル上使是ヨリ岐阜へ通ル
四日上京三十四町焼失三好カ殘族有テ彼
凶賊等火ヲカクルト云京中大キニサワク
委ク記ニ不及

五日信長ヨリ使菅屋九右衛門江州へ來ル
信長狀アリ松永父子度々表裏者ニテ候へ
共亂國ノ時ハ來ルヲ招クニテ候へハ幾度

モ忠義スヘキトナラハ御味方ニ可然ト室町
殿へ御返事申候へハ其許ヨリモカヤウノ旨
ヲ仰ラレ取ナリト也屋形ノ曰松永表裏者
ナレハトテモ末有者ニナシ末ナキ事ト知テ
可然トハ申難併近年病氣ニシツニ又レハ自
身出陣不自由ニテアル上ハイカヤウニモ諸
衆ノ評義次第ナリトノ御返事也
十日京都ヨリ上使來ル昨日松永事首尾ニ
テ室町殿礼ヲ請玉フトナリ

十三日松永父子京都ノ御礼スシテ今日江州
 へ來テ進藤後藤ノ兩藤ヲ以テ屋形へ礼ア
 リ正宗ノ太刀ヲ進上ス屋形對面セス是ヨリ
 松永父子岐阜へ下向スル信長イニキンニ
 礼ヲ請ラルトナリ
 十四日屋形京都六角ノ館ニヲカレシ馬淵
 越中守今日觀音城へ參テ言上スル事種々
 アリ中ニモ舊冬極月四日室町殿非義成御
 行共アルニ依テ義秀信長兩將ノ評定ニテ

一卷ノ諫書ヲアケラレシ事ヲ公義口惜思
 召スト云沙汰アルノヨシヲ云依其義松永
 父子ヲハ室町殿ヨリワサト手ヲ入ラルトノ
 ヲシヲ京說ニイフヨシ右旨ヲ言上ス屋形
 笑テ曰室町殿天下ヲシク器ニハ當ラヌ人
 ナリ計仰出サル
 十九日例ノ山伏大覺坊東國ヨリ上テ屋形
 へ言上ス甲州武田入道信玄今月十二日病
 死ノヨシ也ト云

廿一日室町殿松永父子ヲ御後見トシテ近
國ノ宰人共ヲ集玉ヒ信長義秀兩將ヲ士又
ヘキトノ御謀反アルノヨシヲ告來ル屋形
平井隼人佐ヲ岐阜ヘツカハシ玉イテ信長
上洛候ヘ義秀病氣ノ間上洛成難キトノ事也
同日志賀郡堅田ノ地下人其外山中新左衛
門ナト松本ノ地下人等少々室町殿ヨリ金
ヲ以テ頼三玉フニ依テ同心ノヨシ訃人有
テ觀音城ヘ言上ス屋形伊達出羽守澤田民

部少乾甲斐守三人ニ仰付テ地下人等急キ
誅ニ申ヘキノヨシヲ仰出サル
廿二日昨日ノ三人先堅田ヘ渡海シテ地下
人二百六十七人一ニ誅ニスツル大將馬
場孫十郎ヲハイキナカラ堅田ノ浦ニフシ
ツケニス其ヨリ山中ヘ向フニ新左衛門早
クモ知テ京ヘニケ上ル其ヨリモ松本ヘ向
テ地下人四十三人ヲ誅シケル
廿三日信長上洛ス江州ヨリ屋形病氣故ニ

進藤山城守蒲生右兵衛大夫子忠三郎平井
加賀守伊達出羽守三井出羽守朽木信濃守
多賀新左衛門澤田民部少輔山岡美作守和
田和泉守同中書礪野丹波守新庄伊賀守池
田伊豫守同孫太郎吉田傳九郎間宮三之助
松下加助屋子兵内左衛門高嶋越中守堀掃
部同伊豆守等ヲ上セラルヘシ
同日屋形京極長門守ニ近習ヲ差添テ酉剋
ニ又上セラル屋形病氣ニ付テ上洛ナキニ

依テ今度京都ノサワキ甚心許ナク思召ニ
依テ重テ京極ヲノホセラルカト云
廿四日室町殿御所ヘニ手ニ成テ向フ大門
小路ヘハ信長十三備ニテ責カル西ノ御門
口ヘハ江州ノ勢屋形ノ御代官進藤山城守
ヲ大將トシテ九備ニテ責向フ
同日未剋ニ室町殿ヨリ日野大納言徳大寺
權大納言兩人ヲ出サレテ何ヤウニモ義秀
信長兩將ノ指圖ニ任セ玉フヘキトノ御事

也依之信長勢ヲ打入ラハ寂江陽ノ勢モ同
夕打入ケルナリ
廿五日江陽ノ勢二万七千騎午剋ニ京ヲ立
テ江陽ヘカヘリ來ル
廿六日信長京ヲ立テ江州ニ下向觀音城ヘ
寄移シ至テ屋形對面有テ今度京都ノ軍ヲ
聞至テ信長泪ヲ流シ至ヒテ曰義秀病氣ニ
テヲハスニ依テ早公義吾ニ、ニ成至テナリ
只信長一人粉骨ヲコソセメトテ仰ケレハ

屋形モ共ニ御涙ニムセニテ曰義昭公トテモ
天下ノ大器ニハ當ラヌ御人ナレハ非義重
クシテ永足利ノ正統ウレナヒ至テヘキト
仰ラル其ヨリ信長ハ大奥ヘ入至ヒ屋形ノ
御前ヘ對面ナリト親子ノ御對面殊ニ大奥
ノ事ナレハ其アイサツヲ不知
廿七日信長岐阜ヘカヘリ至テ力屋形御病
氣ヲ心許ナク思ヒ至テ丹羽五郎左衛
門ヲ付ヲカル是者ハ信長トリタテノ者ナリ

廿八日大洪水大雹ヲ下ス大サ如栗諸鳥多
ウタレ死ス

晦日自室町殿上使下向ス屋形病氣ニ付テ

醫師道三ヲ下シ玉ヲ予削主水正ニ被仰付

テ上使ヲ馳走ス道三法印ヲハ種村江兵衛

カ館ニ居クヘキヨシヲ仰付ラル

五月小

二日屋形ノ御前ヨリ伊勢大神宮へ御代參

トシテ織田大學助ヲ勢洲へツカハサル此

大學助ハ織田家代々ノ普代ニテ殊義士夕

ルニ依テ屋形ノ御前御輿入ノ時ヨリ當國

へ來テ女佐臣ト成テ居タル男也

五日佐々木御祭礼作法等例年ノコトク屋

形病氣ニ付テ後藤彦三郎爲御名代社參ス

同日蒲生郡ト野須郡トノシヤウフキリノ公

事アリ蒲生郡ノ非ニ仰付ラル

廿七日日野大納言殿江東ニ下向シテ觀音

城へ入駕シ玉ヲ室町殿ヨリ御内意ノ事有

テ下向ト云屋形對面セス日野殿ムナシク
カヘリ上ラル火降言變江棟ニ下向ニテ
六月大...
七日志村城燒失ノヨシ觀音城へ注進ス志
村安房守秀定カ女房狂ジテ自ラ火ヲカク
ルトナリ
木三日淺井下野守祐政觀音城へ出仕シテ
言上致ノ旨ハ濃洲ノ信長嫡姪第一ノ人ナ
シハ往々國ヲ重テハ必當國ノ害ト可成

ナリ御中ヌキラレ信長ヲ退治可然ト云屋
形ノ曰時有ト祐政又申上ル今年ノ中也ト
屋形仰玉フハ吾弓矢ノ眞加スクナシ角重
病ヲ受ヌレハ自身ノ出陣シカタニ自身出
陣セスレテハ天下ノ乱ヲ治カタトノ玉フ
祐政カ曰御名代ニ此淺井父子ニカリ向フ
ナラハ不知異國於本朝堅ヲ破リ天下ノ太
平ヲ致サシテ掌中ニアリト申上テ數剋天
下ノ御評義アリ

廿九日京都六角ノ御館ニ差置玉フ馬淵源
太左衛門尉早馬ニテ江東觀音城へ馳來テ
屋敷へ言上ス其旨ハ室町殿又御謀反アル
ノヨシヲ申上ル未剋大雨降酉剋ニ晴天
朝廿七月大ハ天下ハ治メ成メテハ生
朔日京極長門守高吉ヲ京都へ上セラル是
ハ公方謀反ノ實否ヲヨク聞カシタメノヨシ
ナリ屋敷京極ニ密意ヲ仰含メラル事アリ
委細其旨ヲ不知シ

同日午剋ニ京都六角御館ヨリ早馬ヲ以テ
觀音城へ注進ス其書付ニ曰
一將軍家御下知トシテ二條ノ御所ニ八日
野大納言藤宰相徳大寺權大納言侍大將
伊勢伊勢守澤田日向守三洲太和守等ニ一
千余騎ヲ差添テ將軍家ハ宇治ノ真木嶋
へ夕テ籠リ玉フ是ハ今春御謀反ノ時ニ
二條ノ御所計ニテ難義ニ及ビ玉フニ依
テ今度ハ濃州江州ノ兵共又二條へ向ハン

時宇治路ヨリヨコヤリニカ、リ上洛有テ
敵二十方ヲ失セシ御計畧ナリト申候事
一 將軍家真木嶋へ籠リ玉フニ供奉仕ル面
面上野中務大夫清信細川兵部大輔藤孝
赤松主馬介乾加賀守同十兵衛尉長岡駿
河守仁木伊賀守一色兵部少輔同式部大
夫澤田左衛門大夫沼田彌十郎上野佐渡
守飯河山城守同肥後守二階堂駿河守大
草治部大夫牧嶋孫六戸田十兵衛曾我兵

庫頭野瀬丹波守中坊龍雲院小川孫太郎
等ナリ右此勢二千七百五十騎也ト云
同日ノ夜子剋ニ屋形ヨリ目加田又六ヲ御
使節トシテ岐阜へツカハサル其旨ハ室町
殿又逆心有テ今度ハ真木嶋ノ城へ夕テコ
モリ玉フト也二條御所ニハ公家ノ面々其
外普代ノ輩一千計ニテ籠城ト云急キ上洛
候へ當國ヨリ名代トシテ家人等上世可申
也トノ事也

二日屋形病氣甚キトイへ共觀音城へ旗頭
等ヲ召寄テ將軍家逆乱ヲ治爲ニ上セラル
面々ニハ進藤山城守蒲生右兵衛大夫ヲ大
將トシテサレソヘツカハサル旗頭衆ハ永原
筑前守後藤喜三郎永田刑部少輔山田美作
同玉林齊同孫太郎多賀新左衛門山崎源太
左衛門平井加賀守小川孫一郎久徳左近兵
衛青地千世壽丸池田孫次郎同伊豫守京極
長門守朽木信濃守蒲生忠三郎乾刑部澤田

民部少輔安彦日向守間宮左衛門尉松下加
助堀掃部同勘九郎左子新兵衛森川次郎左
衛門黒田若狹守同十三郎淺井左近弓削六
兵衛和田中書和介丹後守阿閉淡路守建部
右近等十リ信長當國へ著陣シタイ先陣後
陣ヲ定テ上洛スヘキ十リ名々領分ヘカヘリ
一左右シタイ用意シ打立ヘキノヨシヲ仰
付ラル此勢二万六千騎也
三日岐阜へ使節目加田又六カヘリ來テ屋形

一返事申上ル信長ヨリノ返狀アリ明後五日
ニ上洛スヘキノヨレ也

六日信長四万三千ニテ昨五日ニ岐阜ヲ立
テ昨夕柏原ニ一宿有テ今日觀音城ニテ若
陣ナリ屋形病氣故ニ國ノ間ニ出玉ハス信
長奥ニ入テ屋形ニ對面ス信長ノ曰今度上
洛ニテ公方ヲ討奉リ義秀ト信長兩旗ニテ
天下ヲ治メニナリトノタニフナリ屋形ノ曰
吾此時ニ當リ重病ノ身タリ自ラ出陣スル

事ナリカタシラノツカラ信長ノ天下ト成
ヘレ武運ツタナキ義秀カナト口惜ゲニノ
玉ヒケルト云

七日信長屋形ニ向テ曰何時モ天下ヲ治ム
ルニハ佐々木ノ家ヨリ必其功アレハ屋形
ノ名代衆ヲハ先陣ニ可然トノ事也屋形甚
辭レ玉フトイヘ共終ニ江州ノ勢先陣ニ上ル也
同日辰刻ニ江州ノ勢上洛ス午刻ニ信長武
佐ヲ立テ上京ナリ

同日酉刻ニ江州ノ勢二万六千騎東福寺并
四條五條ノ邊ニ著陣ス亥刻ニ信長四万三
千騎ニテ二條妙覺寺其外所々ニ著陣ナリ
八日午刻二條ノ御所へ江州濃州ノ勢合六
万九千騎上下ヨリ責寄テ合戦ナリ未刻ニ
近衛殿御アツカイ有テ城ヲ開キ可申ニ定
ル日野大納言殿藤宰相徳大寺權大納言三
人ハ京都ヲ拂ヒ玉ヒ勅勘ニテアリ日野殿
ハ中國藤宰相殿ハ石州徳大寺殿ハ根來寺

へノカルトナリ三洲太和守澤田日向守伊
勢伊勢守三人ハ真木嶋へノ先陣ニ加リ供
奉スヘキニ定ル殘ル者モ同前ナリ一々記
ニイトマナシ
九日松永父子室町殿御味方ニ參ルノヨシ
ヲ河内國ヨリ告來十五日ニテ七日カ間雨
風甚ク其上人馬ノツカレヲ休メテ江州濃
州ノ勢ムナシク京ニ日ヲクラス同日信長
ノ下知トシテ明日打立真木嶋へ向フヘキ

ノヨシヲ申出サレ
十六日卯剋兩國ノ人数京ヲ立ニ手ニ成テ
真木嶋へ責向フ今日午剋ニ信長ノ家來ニ
梶川彌三郎ト云者宇治川ノ先陣スルナリ
江州ノ手ニテハ澤田民部少輔宇治川先陣
スルナリ午下剋ヨリ合戦始テ未剋ニハ真木
嶋ノ出城三箇所責落ス申剋ニハ江州ノ手
へモ首八百五十三討取ル也信長ノ手へハ
首九百八十余ウチ取ト云

同日室町殿ヨリ申下剋計ニ長岡駿河守飯
河山城守兩人ヲ出シ玉フイカヤウニモ信長
義秀ノ計ニ成へキトノ御事ナルニ依テ西
剋ニ真木嶋城ヲ請取テ室町殿ヲハ信長ヨ
リハ佐久間右衛門江州勢ノ内ヨリハ蒲生
忠三郎兩人御供申テ河内國若江へ流奉テ
是ヨリ何クへモ御渡有テ御當家大敵ノ三
好松永十一味シ玉へトテ送ステ奉ル其外
ノツキくノ人々或ハ誅せラレ或ハ遠流ニ

十^ツリ落^ツ入^ルニ成^ル人^多シ又^シ信^長ヘス^クニ奉^ム公^ノ
ノ面^々モ多^シ日記^ニイ^トナ^シ此^ニテ足^ル
利^ノ正^統尊^氏卿^ヨリ十^五代^ノ天^下ヲ永^ク
絶^シ玉^フ十^リ大^忠有^シ信^長義^秀兩^將ノ恩^ヲ
ヲワスレ玉^ヒ越^州長^尾甲^州武^田中^國ノ毛^モ
利^ナトカ使^節ニテ一^兩年^ノホ^ト故^ナキ事^ヲ
ヲ申^テ實^ト思^召テ信^長義^秀ヲ退^治セ^ント
テカ^ヘツテ御^身ヲウ^シナ^イ玉^フナ^リ
十^九日^信長^四万^三千^騎ノ内^今日^敗ル^ニ二

條^合戰^真木^嶋合^戰ニテ討^死ノ者^千五^百七^十
三^人十^リ江^州ノ勢^二万^六千^騎ノ内^同兩^度
ノ合^戰ニ討^死ノ者^九百^三十^七人^十リ
同^日未^剋ニ大^手弱^手ノ勢^上洛^スル^ナリ
北^日京^都ニシテ信^長ヨ^リ江^州ノ御^名代^進
藤^蒲生^ヘ評^定有^テ今^度ニ條^合戰^ニ兩^度
テ上^京數^箇所^火災^其上^下乱^從ニ付^テ迷^感
感^ニ及^フヨ^シ也^トテ一^行ヲ出^シ赦^免ア^ル
條^々

定條々

一京中地子錢永代令赦免處也若從公家寺社方地子錢之内收納有來分者相計以替地可致沙汰事

一諸役等令免除之事

一鰥寡孤獨之者於有之見計扶持方可令下

行事

一天下一號取之者何之道大切之事也但京

中諸名人寄合内評義仕相定可言上事

一儒道學碎心國家正政深志勵者或忠孝烈

之者取大切成事候條可申上下行等異丁

他可相計又其器之廣狹能尋問可言上事

右條々相守可言上應其旨可申付者也

元龜四年七月廿日 佐久間右衛門尉

蒲生右兵衛大夫

菅屋九右衛門尉

進藤山城守

村井長門守

兩所ヨリ五人ノ判形ヲ加テ洛中へ出しケル
廿五日ニ江州ノ勢京ヲ立テ下向シテ進藤
蒲生兩人屋形へ合戦ノヤウスヲ言上スル
兩人言上スルニ應シテ旗頭等へ屋形軍忠
アル面々ニ感狀等ヲ玉ハル中ニモ澤田民部
少輔宇治川先陣ニ依テ他ニコトナツテ感狀
ヲ玉リ幸津川津田衣笠ノ三庄ヲ下玉ル進
藤蒲生ニハ二千貫ツ、ノ賞地ヲ下玉ハル

同日屋形澤田民部カ先陣ノ事ヲ尚感シ思

召テ又觀音城へ召寄テ四日ノ御紋ヲ下サレ
廿六日ニ信長京都ヨリ下向有テ今日武佐
ニ著陣ナリ
同日酉刻ニ觀音城へ移玉フ屋形對面ナリ
信長ノ曰天下ハ義秀ト信長ガモノ也ト申
サレ屋形有無ノ返事ナクシテ良シテ日義
秀四五箇年此方ハ中風氣ニテ出陣セス旗
頭等計ヲツカハスナレハ甚信長一人ノ大功
成ト計ノ事也

廿七日信長岐阜へ下り至る午刻大雨ふる
未ニ大風スル此事ニ付説多シ一人ハ大
元八日改元号天正元年
同日京都ヨリ告來ル山州淀城ニ岩成主税
助番頭大炊助諏訪飛彈守三人取コモル其
勢二千五百余也ト云
廿九日目加多攝津守ニ八百七十騎ヲサシ
ソヘ淀ノ城ヘツカハサル今度京都ニ殘留タ
ル細川兵部大夫藤孝五百騎方々集勢カケ

テ目加多ト一手ニ成テ淀ヘ向フト云
同日淀城ニ籠タル三將ノ内番頭大炊介諏
訪飛彈守兩人ウラカヘル故ニ淀城落城ニ時
日ヲトラス岩成主税手勢八百騎ニテ打テ
出討死ス岩成カ首ハ細川カ家人下津權内
ト云者太刀打ニテ討取ナリ目加多カ手ヘ
首二百三十一取之ナリ
八月小
朔日目加多カヘリ來ル屋形軍忠ヲカンス

細川ハ大將岩成カ首ヲ取テ今度初テ室町
殿ヲ立退テヨリノ忠ナレハ岩成カ首ヲ持
セテ同日ニ江州へ來リ屋敷へ一礼有テ二
日ニ八岐阜へ越シ信長へ一礼ヲナスナリ
四日岩成主税介カ首ヲ京へ上セ四條川原
ニ獄門ニカクルニ三方ニノスルは大將ノ面
目タリト云此岩成ハ前公方義輝公ノ御代
ニ五奉行ノ其一人ナリ
五日ノ夜月光如丹東ニ大星出ル

六日京極長門守高吉淺井下野守祐政同備
前守長政進藤山城守等觀音城へ出仕シテ
青地千世壽丸ヲ以屋敷へ直ニ言上致度事
有ト云屋敷奥へ右ノ五人ヲ召寄せラレケル
ニ淺井備前守申上ルハ信長事ハ御舅ト申
恐ナカラモ長政信長妹婿ナリ臣トシテ君
ノ御録ノハシニツラナル事身ニ余テ覺へ候
へ共賢人二君ニ仕へスニテ候へハ言上仕ル所
也一昨日岐阜ノ林佐渡守カ方ヨリ申越候ハ

信長室町殿ヲ流シ奉ル上ハ天下ハ織田カ
家ニアリサリナカラ近江義秀ヲ旗下ニ付
テ東國ノ武田佐竹越國長尾朝倉ヲ討平ラ
ゲン事手裏ニアリト申サル、ニ佐久間ト申
倭奸者諫言ヲ信長へ申江州ノ旗頭共ヲ内
通シ御頼アラハ義秀ヲ旗下ニ付王ハン事
安カルへシ左アラハ越前ノ朝倉モ異義アル
ニシ先淺井備前ハ信長公ノ妹嫁ナレハ御
頼有之二異義候ニシト申ニ付テ明後日信

長ヨリ其へ頼ノ使ニイルへシヨクく分別シ
返事候へトノ事ヲ林佐渡守カ方ヨリ申來
ルナリ信長ヨリ頼ノ使來ラハ討テステラ
シツケ此方ヨリ岐阜ヲ退治成サルへキト
各評定仕テ扱申上ル也屋形ノ曰信長今天
下ヲ治ント思フハ寂也吾近年病氣ニテ出
陣セス唯天下ノ安否各カ心中ニアルへシト
御ラル四人ノ面々美テ申上ルハ信長時ヲ
得テカヤウニ存スルハ寂ニテ候へ共東國

比國西國ニ一人モ國主タル人イニ夕旗下ニ
付候ハス當家ノ者共千人カ一人ト成一テ
信長ノ旗下ニ付事候ニシタトヘハ屋形御病
氣ニテ御出陣ハナク共京極淺井進藤カ國
ニ有ンホトハ弓矢ニ疵ハツケ候ニシトテ
佐々木ノ宮ノ牛王ニ各血判ヲ仕リ子々孫
々ニ至ルマテ屋形ノ正統ヘ逆心スヘカラス
トテ一通ノ起請ヲ書テ則屋形ヘ見せ奉ル
屋形ノ曰吾弓矢ノ冥加ツキ近年カヤウノ

病氣ニシヅム事ヒトヘニ家運ノ末成リ然ル
ニ各ニ心ナキ旨ヲアラハス事誠謝スルニ
所ナシト仰ラレテ各觀音城ヲ退出ノ面々
人領分ヘカヘリヌ
八日案ノコトク信長ヨリ淺井備前守方ヘ
内通ノ使節來ル其詞ニ淺井父子信長カ旗
ノ頭ヲモアツカリ玉フナラハ近江國一圓ニ
父子ヘツカハシ可申ナリ然ラハ其國守護
義秀ニ腹ヲキラセ玉ヘ殘ル旗頭等ヲハ其

方父子ノ家人同前ニ召ラカレ候へ吾ラ妹
御菊其方へツカハシ候へハ一方ナラス思ヒ
申ナリ義秀ノ事ハ近年病氣ニテ居ラレ候
ナレハ各カ主ト頼ンテモ往々頼ナキ事也
貴殿ノ才覺ニテ越前ノ朝倉義景ヲモ手ヲ
入テ申サレ候ナラハ一入大悦成へシトノ
狀ナリ則此狀觀音城へ淺井カ方ヨリ注進
申ナリ信長ヨリノ使ヲハ淺井長政カ下知
トシ家來淺見對馬守ニ申付テ九日ノ夕方

ニ濃州ト江州ノサカイ川ニハリツケニカケ
テ其ツハニ札ヲ立テ信長ノ使不破源太左衛
門ヲ淺井カ計トシテ如此ナリ賢人ハ二君
ニツカヘスト書テタテタリ是ヨリシテ信長
ト江州トテキレトナルナリ
九日淺井備前守カ方ヨリ早馬ヲ以テ觀音
城へ注進ス其旨ハ日野蒲生右兵衛大夫子
息忠三郎阿閉淡路守信長へウラカヘリ敵
ノ色ヲ立テ候ト云ニ又進藤山城守カ方ヨリ

モ告來ル其外所々ノ城々ヨリ觀音城へ注進
スル事クシノハヲヒクカコトシ屋形中風ノ
御煩ニテ御足モ夕、サルニ御次ノ間ニテ
ヲトリ出玉ヒ何々蒲生阿閉信長カ方へウ
ラカヘリタルト十吾病中ノ故ナリトテハカ
ミシ玉フカ目加田攝津守ヲ召レテ蒲生カ
人質阿閉カ人質ヲ是へ召ツレトテ蒲生
カ女ト阿閉カハ歳ニ成男子トヲ御座所ノ
シラスニテツルシキリニセヨトテキラセ玉フ

テ屋形ノ曰蒲生阿閉代々ノ大恩ヲワスレ
今逆心スル事タトへハ吾病死又討死スル
共七生ニテ蒲生阿閉カ子々孫々ヲタヤサ
ニ物ヲトテ大ノ男ノ御眼ヲニラミ玉フ事
スガミシキ事也
九日ノ未剋ニ屋形淺井カ方へ使ヲヤリ玉
ヒ淺井父子ハ其ヨリ打立テ謀反人ノ阿閉
ヲ討果シ候へ此方ヨリ蒲生父子ヲ討果サ
ルヘレトノ事也

同日夜子刻ニ日野谷へ蒲生退治トシテ日
加多攝津守山崎源太左衛門箕浦次郎左衛
門池田伊豫守四人七百五十騎ニテツカハサレ
十日卯刻ニ合戦初ル所ニ同日ノ辰刻ニハ
信長四万八千ノ勢ニテ柏原上菩提院マテ
上テ佐久間右衛門尉ニ二千騎ヲサレソヘ
蒲生ヲミツゲトテ鎧フスマヲ作テヨコヤ
リニカ、リ合テ當國ノ七百五十騎ト合戦ト
ル蒲生信長ノ助勢ニカ、ラヘテ城ヨリ打出

テ一文字ニカ、リテ合戦ス目加多山崎箕浦
池田陣ヲ一所ニ立テ東西ニノリ廻レテ戦
フテ蒲生ヲ城中ヘヲイコミ佐久間カ勢ト
戦フニ城中ヨリヨコヤリニウツ鉄炮ニテ
味方多ク討レケルニ依テ四人大將共一度ニ
陳ヲ引クニ佐久間信盛カ勢シタフ事三度
ナリ四人ノ大將クリヒキニ引テウチ入ケ
ル是ヲ近江日野合戦ト云四人ノ旗頭十死
一生ノ合戦ナリ

十一日ニ信長醒井番場ニテウチ入テ觀音
城上淺井備前トカ通路ヲトリキツテ門出
村。ムク千村。コシノ内村。シユ淵村。ウクイヌ
華在家。一色村。アツサ河原。十千ノ村。等ニ陣
取テ觀音城へ責向フ淺井ハ屋形へノ通路
ヲ取キラレシ故ニ阿閉ヲ責ル事不成小谷
城ヲカタメテ人數ヲ集ル蒲生ハ甲賀郡ヲ
キリ取テ南近江へ討テ出ントスルナリ
十二日屋形進藤山城守ニ七千五百騎ソへ

本道通ヲ防カセラル平井加賀守六千三百
騎ヲサレソヘテ下道筋ヲ防キ玉フカ信長
ノ大勢ニ手ニ成テ合戦ス屋形東ノヤクラへ
テゴシニカ、レテ上リ玉ヒテ合戦ヲ見物ナリ
味方ノ勢良モスレハモ三立ラル、ヲ見玉イテ
後藤喜三郎ニ御紋ノ旗ヲ玉テ三井出羽守
永原大炊頭三上伊豫守赤田信濃守建部傳
九郎等ヲサレソヘテ其勢八千三百騎本道
ニカ、リ戦フ進藤ヲミツゲトテ出シ玉フカ

後藤喜三郎ニ仰付ラル、吾旗ヲ見ハ淺井
父子カヲ得テ打立スヘキソ今日ヲ限ト戰
ヘトテ御團ヲ玉ハルニ後藤今年共三歳若
キ者ニ大將ヲ玉タル悦ニ打死セントテ八
千余騎ヲ二手ニナシテ時ヲ作カケク平ニ
戰フニ進藤モカヲ得テ戰フ信長ノ先手一
万余騎ヲ柏原ニテ追討ニスル是ヲ見テ下
道ヘ向フタル面々モ同ク追行ニ淺井父子
屋形ノ旗ヲ見ヨリ打テ出テ小谷表ヘノ先

手池田庄三郎不破河内其外信長衆十二頭
十合戰十リ淺井父子息ヲモツカセス戰フ
ニ信長勢キリ立ラレテ陣ヲクリ引ニスル
十リ酉剋ニ合戰終ル信長打負テ今頃ニテ
引退ク

一今日ノ合戰ニ味方ヘ討取首二千三百七
十六十リ淺井父子カ方ヘ同八百七十五
取之信長一代ノ難義ノ合戰十リ十云十リ
十三日去ル夜日野ノ謀反人蒲生ヲフ三ツ

フサレニ事安カルヘキニ昨日度々ニ合戦ニ
人馬ツカレタルニ依テ延引スル處ニ蒲生夜
ノ内ニ信長ノ人數一万三千騎ヲ又柏原マ
テ引入在々ニ火ヲカケタリ是ニ味方大キ
ニ難義ス今日ノ午未剋ニハ信長ノ人數又
本ノコトク柏原醒井番場マテ入替テ陣ヲ
ハル敵味方今日ハ合戦ナシ
十四日蒲生カ計畧トシテ信長ヘイテシテ
白觀音城小谷十ノ中ニハサマテ通路ヲ取切

ルノ故敵ノ兵心ヲ一志シテ戰候間味方度
々々テ候ヘハ甲賀ノ谷ヨリ百足山ヲ下ニ
見テ栗本郡高野手原上勾草津ヘンニ打テ
出玉イテ觀音城ト小谷ヲ一方ニ成シ合戦
ニ候ナラハ屋形ノ勢ハ大半小谷ヘト退キ
候ヘシト云ニ依テ信長今日未剋ニ日野ノ
谷ヘ勢ヲ打入甲賀郡ヨリ高野石部ヘマワ
ルナリ此、事蒲生カ家人新庄清兵衛ト云者
觀音城ヘ馳來テ申ナリ屋形旗頭等ヲ高野

口へツカハス信長計畧トシテワサトスル事モ
十テ本道筋下道筋ノ人数ヲハ其マ、ヲカ
レケリ

十五日早朝ニ信長ノ旗共高野石部手原上
勾ニ蒲々テ見ヘケルニ味方ノ旗頭等ニハ
和田道犬同和泉守狗丹後守宮川三川守高
木隼人青地千世壽永田刑部少輔大野木土
佐守磯野丹波守吉田安藝守鏡兵部少輔三
田村左衛門三塚備後守合一万三千騎三手

ニ成テ責向フテ戦フニ味方案内ヲヨク知
タルユヘニ所々ノツマリヘ責寄テ戦フ間信
長四万余騎マク立ラレテ草津マテ引ク
處ニ青地草津ノ百姓等一揆ヲシコシ家一
間モ不殘燒拂フニ依テ信長勢多クコヘ馬
場松本大津ニ陣ヲ取ルナリ十五日ノ世片
合イ合戦ト云ハ是也

一進藤山城守カ云信長又大津ヘ引取ル間
ヤカテ志賀合戦ニ成ヘシ是當家ノ吉例

一 同日ニ淺井長政同名左近ヲ以テ屋敷へ
 合注進ス信長蒲生カ案内ニテ甲賀ヨリ大
 津へ取テ出テ候事是願所ノ幸ニテ候ハ
 信長ヲハ岐阜へハ返シ候ニシヤカテ屋敷
 天下ニ旗ヲ上ラシニ御事是此時ナリト云
 十六日信長志賀郡ノ城々雄琴堅田和余木
 戸比良五箇所ノ城ヲ責ルニ觀音城ヨリ見
 ツキノ勢ヲツカハス事成難キニ依テ落城

ス右五箇所ノ城主ハ雄琴城ニハ和田中書
 秀純三百騎堅田城ニハ山田民部少輔忠宗
 八百騎和余ノ城ニハ和余丹後守秀氏四百
 騎木戸城ニハ木戸越前守秀資三百騎比良
 城ニハ田中左衛門尉二百騎ニテ夕テコモリ
 候カ信長四万余騎ニテ戰フニ木戸越前守田
 中左衛門兩人ウラカヘリ候上殘テノ城共屋
 敷ノ加勢ヲ待トイへ共海上ニテヲソキニ
 依テ城ヲ開キ船ニテ觀音城へ退クナリ是

ヨリ信長志賀ノ郡ヲ手ニ入テ五箇所ノ城
ニ家來等ヲ入ヲク也
十七日信長高嶋郡へ乱入ル淺井備前守八
千騎ニテ海津へ出向テ信長四万余ト合戦
ナリ信長ノ勢敗北シテ今津マテニクルナリ
同日屋形ヨリ淺井後誥トシ一万六千騎皆
舟ニテ今津表へノシ寄テ信長勢ヲ追討ニス
ルニ信長白鬚神宮ヲスキテ小松ニテニクル
今日ノ合戦ニ味方へ討取首二千七百三十

六十ナリ
十八日午剋合戦初テ味方大キニ敗北シテ
觀音城ノ御勢八船ニトリ乗テ四五町シキ
ニ船ヲウカヘテ遠矢ヲイル淺井カ勢鹽津
ニテクツレ退ク今日ノ合戦ニ味方二千八百
余討死ス信長海津鹽津今津ニ旗ヲ立ルナリ
十九日信長内三河國ノ住人徳川三川守ヲ
今日若狹國へヤルニ此男智畧ヲ以テ若狹一
國合戦ナク治メ申ノヨシ告來ル是ヨリ信

長大キニカヲエテツルカヘ向フトナリ
同日屋形ヨリ倉田右京進ヲ越前朝倉ヘツカ
ハシ加勢ヲユイ玉フニ朝倉モ信長ツルカヲ
取ト聞テ加勢ヲサレコト事シエス
廿日朝倉義景ニテ江北田邊山マテ
出陣ナリ是ニ味方カヲエテ信長持ノ海津
ノ城ヲセメ落ス處ニ淺井備前守カ家人ニ
淺見對馬守大ツクノ城ニヲキタルカ忽ウテ
カヘリタルノヨシヲ告來ルニ早信長方ノ兵

ヲ引入タルト云此淺見對馬守ト云者淺井
カ家人トイヘ共屋形ノ御前ヘモ度々召出
サレシ男ナリ
同日朝倉義景ノ家人齊藤刑部少輔小林茂
六左衛門西方院道休三人ウラカヘツテ信長
ノ旗下ニツク此三人ノ者共ハ義景ノ旗頭
共ナリ此、外越前持ノ城々兩日ノ間ニ四箇
所ウラカヘルナリ

廿一日朝倉義景ヨリ屋形ヘ使節ヲ以テ義

景旗^{シヤク}下^{シタ}ノ城主^{シヤク}等多ク信長方へツキ殊^{コト}ニ敦賀^{ツツナ}
表^{シメテ}ノ兵共大形ウラカへリタルトノヨシヲツナ
來^キルノ間先勢ヲ打入重テ此表^{コト}出陣仕^シへキ
也^{コト}義景^{ヨシカチ}勢ヲ入ト信長^{シノブ}見テ有ハツ、イテ越^{コト}國^{コト}
へ責^{セメ}入へレ其時アトヨリ義秀^{ヨシヒデ}御勢ヲ出サ
レハ信長ヲハ敦賀^{ツツナ}郡ノ内ニテ大方討取リ
可^キ申候トノ義景^{ヨシカチ}内通^{ナト}ナリ屋形仰ラレ候ハ
義景大ニ臆^{オソ}シタリ重テ出勢スル事ハカタ
カルへレトナリ

一越^{コト}前^シ平泉寺僧^{シノブ}ナトマテウラカへツテ信長
勢ヲ國へ引入ルノヨシヲ告來ル其外一手
ノ大將分ノ者十一人マテ義景ヲステ信
長へツクト云

同日子剋義景北郡表^{キタノヨホリ}ヲ引拂^{ヒキハラフ}テ勢ヲ入ル處
二田邊山ノ城ニハヤウラカへリノ者有テ
ヲツケヤクナリ信長是ヲミテ刀根^{トネ}山ニテ
朝倉^{アサクラ}ト合戰^{カウケン}スルニ朝倉三千七百騎^キ討勢ヲウ
タセテ引取ントスルニ信長四万八千ニテ追

フニ朝倉三度マテカヘシ合テ戰フニ朝倉内
ニテ一手ノ大將分ノ者廿三人マテ討死ス
ルナリ
一今月度々ノ合戰ニ信長大利ヲエテ責取
ル城々ハ大ツク燒尾月カセヨウノ。田邊
田上。ヒキタ。ツルカ表ニテ四箇所合十所
ハ信長取ナリ十一人マテ討死ス
廿三日信長勢八万余ニ成テ越前國ニ乱入
テ合戰スルニ大方ウラカヘルニ付テ彌信長

大勢ニ成テ越州府中ニ旗ヲ立ル義景居城
ヲ開キ退テ同國大野郡山田ヘワツカ千騎
ニタラヌ勢ニテ引入ルニ義景ノ妹嫁大野
三川守朝倉式部大夫兩人ウラカヘリ人數
ヲ立ヲキ義景ニ自害候ヘト云義景則切腹
ス首ハ信長方ヘ渡スナリ越前ノ侍共ニ一
人モ義ヲ思フ者ナシ寂義景仁義ノ大將ニ
ナキ故ナレ共アマリ成事也ト云
一信長越前國ヲ心安ク退治シテ同國府中

ニライイテ家來等ニ越國ヲサキアタヘ申トナリ
一右ノ合戰終ル比ニ大野郡ニテ義景ノ妹大野
三川守カ女房信長方ノ下人ニイケトラレテ
府中マテ來リレニ一首ヲツラ子テ井ニ入テ
死スト云其哥ニ曰
世ニハナハヨシナキ雲モヲホイナン
ニイサ入テマシ山人ハノ月景ノ救軍大野
此一首信長ヨリ皇家へ達シケルトナリ
ウレ深キ哥ナリ

廿六日信長越前ヲキリ取テ其勢八万騎ニ
テ越前ヨリ江州へ責向フ陣ヲニ手ニナシ
テ四万騎ヲハ屋敷ヨリコメラカシシ小谷ノ
城淺井父子へ責向フ四万騎ヲハ高嶋ヨリ
志賀郡ヲ責取テ其後ニ方ヨリ觀音城ヲセ
メ落スヘキトノ信長行ナリト云
廿七日信長小谷表ニテ合戰同日信長ノ旗
頭佐久間徳川柴田四万ニテ志賀郡比良小
松ニテ屋敷ヨリ進藤山城守目加田攝津守

三二万騎ヲサシソヘ志賀郡ヘヤリ玉フニ
小松ニテ合戦シテ味方敗北シ同郡坂本ヘ
勢ヲ入ルニ佐久間徳川柴田勝ニノツテ追フ
處ニ進藤目加多坂本ヨリ取テカヘシ堅田
真野ノ間ニテ又戦フテ未剋ニ信長方ノ人
數色立處ヲ進藤山城守勝ニノツテ追フテ
行クニ信長勢大溝ニテニグル北七日ノ追
マワシ合戦ト云ハ是ナリ味方ニクルニ敵
勝ニノリ敵ニグルニ味方勝ニノル一日ノ内

兩度場ヲフニヘタルト進藤自讃申タルハ此
合戦ナリ
北八日小谷ヨリ淺井父子屋形ヘ加勢ヲウ
ケ奉ルヘキノヨシヲ注進スルニ屋形ハ大
病ニテヲワシケルカラキナヲツテ當城ニ
ハ勢少テモクルニカラストテ後藤喜三郎
池田伊豫守ニ八千五百騎ヲ差添小谷後詰
ニツカハシ玉フ後藤池田ト信長横ヤリ三備
合一万ホトノ人數ト合戦ス味方首數八百

余討取テ午剋ノ合戰ハ味方勝ナリ
同日信長淺井父子ト居城ノ間ヲトリ切テ
淺井下野守祐政カ居城ヲ未剋ニ責落ス祐
政自害スルナリ備前守長政打出テ父祐政
ヲミツカント戰フニ信長伏兵ヲシイテアト
ヨリ取巻ヲ見テ長政取テカヘシ城へ入依之
祐政自害ス
廿九日小谷合戰辰剋ニ始ル辰剋ヨリ午剋
一テノ合戰ニ小谷城西ヤクラヨリウラカ

ヘル者有テ火ヲ放スニ西風ツヨク吹テ本丸
ヘフキカケ淺井カ勢ハタラキエス依之大
將備前守長政自害シテ城ニ火ヲ又カクル
兩方ヨリノ火ノ手ニテ小谷落城スルナリ
信長彌利ヲエテ觀音城ヨリノ後詰ノ勢ト
合戰味方八千ニテ信長ノ大勢ヲ十四五町
ニク立ル雖然信長大軍ノ間酉剋ノ合戰
ニ味方敗北シテ佐保山ニテ勢ヲ引入ル
同日午剋ヨリ大風フク酉剋ニヤム三尺ニ

ワリノ大木共ヲフキタラス前代未聞ノ大風也

九月大

朔日信長八万騎兩方ヨリ觀音城へ責向フ
テ志賀郡ニテ進藤山城守ト柴田カ勢トセ
リ合アリ佐保山ニテモ合戰アリ委夕日記
ニトメ難シ

二日依勅意信長ヨリ佐又間右衛門菅屋九
衛門兩人ヲ以テ屋形ト中和ノ事ヲトリヲ
コノウ屋形老臣ヲ集テ評定ス何モ言上ス

ルハ淺井父子討死仕其外越前ノ朝倉ナト
モ討レ候へハ味方次第ニ勢ツキ候其上屋形
ハ信長聲ニテ候へハ中和有テモ可然殊近
年御病氣以テノ外ニテ候へハ御自身ノ出
陣モ成難ク候大將カク出陣ナクテハ重テ
合戰ニ利ヲ失フ事多ク候へシト申上ル屋
形ノ曰吾病氣甚クシテ出勢ナクシテハ合
戰ニ利ナキ事兼テヨリ存入處ナリ信長弓
矢眞加ノ者ナリイカヤウニモ各計候へト

ノ事ニテ屋敷ト信長和睦アリ信長弓矢ハ
表裏多トイヘ共眞加ツヨキ大將ナリ人ハ
武ノ眞加第一タルヘシ屋敷ノ弓矢ハ圖ヲ不
外弓矢ナシ共眞加ノナキナリト人々云合
候ナリ
四日ニ信長ハ勢ヲ打入岐阜ヘカヘラル
一今月ノ日記多ウセテナシ依之委ク記サス
一屋敷中風ニテ行歩不自由ニ依テ是ヨリ
出勢ノ事ナシ大形江州ノ弓矢破滅ノハ

大シメナリ
一今年ヨリ信長天下ヲ治ムル初ナリ
廿五日信長五万ニテ尾州西方長嶋ヘ責向
フ長嶋ニハ本願寺末弟共取コモリ居候甲
州武田ト一味ナリ信長勢引口ニテ二千人
ホト討レ信長敗北ト云此合戦ニ江州屋敷
ヨリ一万六千騎加勢ヲヤルニ信長敗北ス
ルノヨシ告來ルニ依テ今頃ヨリ進藤山城
守後藤喜三郎永原筑前守等引返レ觀音城

ヘカヘツテ屋形へ右ノ旨ヲ言上ス

十月大

四日西東ニ旗雲立ツ東ヨリ消失ス

十一日平井入道卜心卒ス時ニ八十四ナリ

屋形三代氏綱公義實公當屋形ニテ奉公ノ

入道ナリ度々合戦ニ軍忠アリ

廿四日和田和泉守屋形ノ御名代トシテ山

洲アタコ山へ參是御病氣快氣ノ御祈ト也

廿七日大風西方赤氣アリ人ノ面赤ク成ル

十一月小

九日箕作兼禎公ノ二男大原次郎左衛門賢

求甲洲武田四郎勝頼ヲ頼テ甲洲へ下向ノ

ヨシヲ永原道覺入道觀音城へ出仕シテ屋

形へ言上ス屋形何タル返答モナシ

是ニテ八日記具ニアリ是ヨリ八日記粉失

ナリ江洲旗頭ノ中ニ書ヲキタルヲヒロイ

集テ記ナリ月付ニ及ハス記繼モノナリ

同月廿五日佐々木ノ御社ニテ今日七日ノ

間護摩アリ山門正覺院權僧正修行當屋形

病氣ノ祈ナリハニハハス

十二月大

北日白井山城守秀宗卒ス當屋形御取立人

人ナリ

未

氏月其

光

光

天正二刻年法

正月大

四日地震

光日山王大官ヨリ怪光物立ツナリ

晦日屋形立願ノ事ニ付テ山王社宮中

不殘造營ナリ奉行山崎源太左衛門池田伊

豫守等ヲ仰付ラル

二月小

上旬ヨリ四月下旬ニテ二甲州武田四郎勝頼

美濃國信長持ノ城々ヲ責落テ國ヘカヘルト云

三月小

十三日信長上洛ナリ武佐ヨリ觀音城へ上
テ屋形ノ病氣ヲ見テ紅淚ス信長一紙ノ起
請文ヲ書テ屋形ノ目前ニテ血判スへ屋形
ノ孫々ニ至ルニテ信長異心ヲ存スミシキ
ノヨシナリ是又信長例ノ表裏ノ一ナリ
廿七日信長皇家へ奏シ奉テ南都蘭奢待ヲ
キテ世テル舊法ニ任テ一寸八分切トナリ

日野大納言飛鳥井大納言兩人勅使トシテ

南都へ下向ス信長ヨリ佐久間右衛門菅屋

九右衛門塙九郎左衛門蜂屋兵庫頭武井夕

庵松井友閑ヲ南都下ス此時信長サレヅニ

依テ江州ヨリモ檢使ヲヤリ玉ヘトナリ則

進藤山城守鯨江蒲介ヲ屋形仰付ラレ南都

へヤリ玉フ是モ信長江州へ一ノテタテ也ト云

同日四月大

三日佐々木宮臨時ノ祭礼アリ屋形病氣ノ

祈ト云
同日大坂本願寺ヨリ勢ヲ出テ信長下知ノ
城ヲ責ルナリ
九日去月信長キリ取玉フラシヤタイヲ
少シ箱ニ入江州屋形ヘヲクル是モ信長表
裏ノ其一ナリ
同月信長天下ノ權ヲ取テ將軍ニ成トイヘ
共ワザト宣旨ノ事ヲカクス是モ近國ノ守護
ノ思ヒヲ憚テ信長一ノハカリ事ナリト云

五月小

五日佐々木御祭礼例年ノコトシ屋形爲御
名代三井新三郎安隆社參ス
廿日高嶋日向守秀氏卒ス江州旗頭ノ一人也
屋形甚ラシム進藤山城守カライナリ
廿八日竹生嶋ヨリ金魚ト云大魚ヲ觀音城へ
上ル魚ノ長二尺四寸アリ前代未聞珍物ナリ
六月小
遠州高天神城ヲ武田四郎大軍ヲ以テ責ル

ノヨシ也依之德川三川守家康ヨリ信長へ
加勢ヲ請ル信長今月十一日ニ人数ヲ汰テ
同十四日岐阜ヲ立同十七日ニ三州吉田ニ
ツク處ニ德川三河守ヨリ注進アルハ高天
神城主小笠原與八郎總領小笠原ヲタテ出
シ勝頼ヨリ一万貫ノヤクソクニテウラカヘリ
武田ノ勢ヲ城中へ引入ルノヨシナリ依之彼
表落居スルニ付信長父子勢ヲ入テ岐阜へ
カヘラルト云

廿一日ニ信長岐阜へカヘリテ同廿二日ニ江
州へ使節ヲ越テ信長ヲ矢ノ眞加有ニ依テ
遠州表ノ合戦ニテマヲトラストノ事也イツ
ハリナリ是モ信長一ノ表裏ナリト云

七月大

十四日蒲生石馬助年來ノ非義有ニ仍テ屋
形平井駿河守定能宇野七之丞ニ仰付テ觀
音城大門坂ニテ討也

十八日武田勝頼三万五千ニテ遠州高天神

へ出陣シテ信長下知ノ城ヲ責落テ國へカ
へルトナリ
廿日尾子壽清寺出雲國ヨリ江州ニ來テ一
通ヲ以テ屋形へ言上ス其詞ニ曰吾本當家
ノ末苗也ト屋形進藤山城守ニ仰付テ則對
面アリ此尾子壽清寺ハ雲州ノ正統ナリ屋
形御伽ノ衆ニ加テ常ニ御病氣ヲ快クスト云
廿九日信長六万三千ニテ長嶋へ向テ悉ク
攻ホ口ホスナリ併信長平責ニスルニ依テ

一門多討死也ト云江州へ書付來ルナリ一
家ノ内討死ノ面々

津田大隅守信廣信長兄也 同半左衛門秀成信長舎弟

同市令助信成信長甥也 同又六郎信時信長弟

同孫十郎長利信長弟 赤見左衛門佐信兼

大野佐治八郎信方 佐渡民部大輔秀賢

坂井七郎左衛門

江州ヨリツカハレテ者ナリ

此外七百五十七騎討死ナリト云

四月八月小

四日東ニ容星出ル同月十七日ニテアリ
廿日目加田左太夫ニ屋形御講字ヲ玉ハツ
テ秀遠ニナル

九月大

廿八日近州植村城主植村太和守秀盛率ス
行年五十三前ノ屋形ニ仕ヘテ拍原合戦ニ
先陣ニタルニ依テ旗頭ニ仰付ラレテ軍忠
甚アリシ勇士ナリ

一門十月大

十三日屋形病氣祈トシ淺井右近ヲ熊野山
へ御代參ニツカハスニ彼山ノナキノ葉ニテ
人ノ死生ヲ知ル事アリ右近屋形ノ病氣ヲ
見ニ不好ナリト右近彼山ニ一宿ノ夜權現
ノ御夢ニニヘテ一ツノ文ヲ淺井ニ與フ其神文曰
江陽廿四郡太守
武運漸絶於子孫
前業前因絶神力
家門從者放十方
雖有子孫又如無
經八十餘年成繁
得時國舉武運久
社神移力江湖春

右ノ神文ヲ淺井右近秘テ人ニ不語江州ニ
カヘツテ山門正覺院權僧正語僧正曰神文
如クハ當屋形十年ノ内ニ逝去スヘシ江州
ノ弓矢ハヲトロヘヌヘシ近年ノ内ニ一子イ
テキ玉フヘシ八十余年ヲヘテ當屋形ノ子孫
大キニ武業ヲアラハシ舟江州ノ家ヲコ
ス大將アラニトナリ此事終ニ屋形ヘ言上
スル事ハナシ或人ノ曰此神文ヨミテ見ニ
更尙面合點セス詩ニアラス語ニアラス又

文ニアラスト云

廿四日比良山アタコノ宮燒失ス前屋形初テ山
州ヨリ勸請アリシ宮中也甚國ノ凶事ナリト云

十一月大

四日山王聖真子ノ宮鳴動ス屋形ヨリ大神樂アリ

潤十一月小

廿日大雪フル雪中ニ雷鳴甚兵乱ノ兆ナリト云

十二月大

九日若狹ノツホ子ノ腹ニ屋形ノ御子誕生

男子ナリ同月廿日ニ逝去ス御當家末ナリト云

天正三刻年

正月大

五日信長上洛妙覺寺ニ本陣同十日ニ信長
下知ノ國々道橋間尺ヲ定作ルヘキヨシヲ
近國ヘフレ渡ス

十三日信長公岐阜ヘカヘラル同十四日ニ觀
音城ニ至テ信長屋形ニ對面有テ病氣ノ旨
ヲトフラフナリ

二月小

三日屋形目加田左太夫秀遠ヲ使節トシテ
岐阜ヘツカハシ玉フ是ハ御病氣ニ付テ志賀
郡高嶋ノ郡ニ郡ヲ信長ヘアツケ玉フヘキ
トノ事也信長辞シ玉フ終屋形信長ヘヤル
是ヨリ信長ノ領分ニ成テ志賀郡ハ明知十
兵衛尉光秀ニハイヌ高嶋郡ヲハ木下藤吉
即元吉ニハイヌルナリ
十四日木下藤吉即觀音城ヘ出仕シテ進藤

山城守ヲ以テ屋形へ目見ス木下藤吉申上
ルハ佐々木ノ御家天下武ノ柱ナリ御諱字
ヲ玉ハリ度トノ事也依之屋形義秀ノ秀ノ
字ヲヤリ玉ヲ木下藤吉ハ初ハ元吉ト申十
リ是ヨリ秀吉トハ申ナリ秀吉正宗ノ太刀
ヲ屋形ニ進献ス是モ信長ヨリノ一ノ行也
信長心中ハ近江國ヲヨク夕夕ラシラキ十八天
下ハヲノツカラ吾物可成トノ事ト今世ノ人
々申合タリ

三月小
二日信長上洛ス
三日佐々木ノ御祭礼信長觀音城ニ上ル屋
形對面ス屋形ノ御前對面信長種々ノ進物
等アリ四日ニ信長京著ス
十五日今川氏真近年信長ノ旗下成テ今日
江州武佐ニツク屋形ヨリ使節ヲ立テ今川
氏真ヲ觀音城へ招請玉フ初テノ對面ナリ
十六日ニ氏真上洛ス

十六四月大真王祭

朔日信長ヨリ使節江東ニ來ル禁中御修理ノ事ナリト云屋形返書ナシ
十日信長公家領ヲ改舊記ニ任テ宛行フ此事評定上ニテ江陽へ使節下ル屋形進藤山城守ヲ上セラル信長則評シ合セ玉フトナリ是信長ノナノ行也上云
十五日信長岐阜ニ下向此時京中シヲキトシテ信長ヨリ村井民部丞丹羽五郎左衛門

江州屋形ヨリ平井丹後守池田伊豫守ヲヲキ玉フトナリ是モ信長一人ノ計トナク江州ヨリ兩人ヲ請ルモ一人ノ行ト云

五月小

十三日信長三州長篠表へ今日岐阜ヲ立テ下向其勢五万三千ナリ長篠ハ信長旗下徳川三川守家康持ノ城ナリ家康縁者奥平九八郎家正居城ナリ甲州武田四郎勝頼三万二千ニテ長篠城ヲカコムトナリ武田川ヲ

越テ合戦ス是信長ハカリ事ニテ如此ト云
廿一日ノ卯刻ヨリ合戦初テ未刻ニ終ル武
田敗北信長鉄炮ヲ以テ利ヲウルト云ナリ
廿五日信長岐阜ヘカヘリ玉フ
廿六日江州ヘ信長使節林佐渡守來ル長篠
表ニテ信長大利ヲエタルトノ事也

廿八日城介信忠二万四千ニテ三州ヨリス
クニ美濃國武田勝頼持人城遠山ヘ進發ス
城ノ大將秋山大嶋座光寺ナント云者三人

降參シテ遠山ノ城ヲ信忠ヘ渡スナリ降人
三人ヲハ岐阜ニテ誅ストナリ

六七八九ノ日記ナシ重可勘記旗頭中ニ可有歟
十二月大

八日信長上洛ス家礼等官ニス、ム信長任
宮アリ

十八日岐阜ヘ下向ス當年五月ヨリ當月ニ
テ日記殊ニ紛失ス

天正四年丙子年

正月大

朔日ヨリ十五日マテ江東觀音城ニ如雲ノ物覆カ、ツテ國中ヨリ山不見

廿一日高頼公ノ御吊アリ是ハ當屋形ヨリ

四代以前ノ屋形十リ何ニ依テ彼高頼公ノ

御追善ソト問ニ屋形度々奇代ノ夢想ニ依

テ也ト云

二月小

四日江南江西ノ鼠共不殘江東江北へ移ル

ナリ日中二人ノ見物ヲモ不恐シテ彼鼠共

移行事珍シキ事トモナリ

廿七日屋形三上ノ社ヲ建立奉行田村兵庫

助池田孫太郎

三月大

三日佐々木御祭祀アリ蒲生三十郎ト淺井

助六ト喧嘩仕リ死ス下人共五人マテ討死

ス屋形大キニ怒テ兩人カ妻子等國ヲ拂玉フ

十八日幸津川新河大神ノ宮中ヨリ光出ル
 ノヨシヲ觀音城へ注進ス屋形目加多ヲ以
 宮中ヲ開セ玉フニ光則失ト云
 右旨本日記ニハ委ク可有ナリ是ハ後藤豊
 前入道覺書ノ通ナリ元七八年ノ日記粉失
 スルノ間其間ノ事大方ナシ右ニ記ス通ハ
 家々ニ少ツ、書ヲキタルヲ集テ如此

四月小入ノ具然ノ子不認シテ原共
 廿六日往吉ノ社兵火ニテヤク同日京北野

宮鳴動ス江州白江城燒失

進藤山城守池田伊豫守同孫二郎山岡孫太
 即其勢一万二千ニテ大坂表へツカハサル是

ハ信長加勢ニ付テ屋形ヨリ如此

廿三日屋形伊勢神明へ代參トシテ池田孫三
 郎ヲツカハシ玉フ病氣イノリノタメナリト云

五月大

三日天王寺燒失同五日佐々木社御祭礼ア
 リ屋形ノ御名代後藤喜三郎社參ス

十一日伊吹山權現堂ノ番僧佛躰ノコトクノ
 雪ノカタツリ氷ト成タルヲ石船ニ入テ觀
 音城へ進獻ス半キヘテ少其形アリ定本日
 記ニハ具ニ可有歟

廿日平井美濃入道卒ス七十三歳江州旗頭
 ノ一人ナリ平井加賀守カ伯父ナリ

九日雲光寺ニ於テ氏綱公ノ御吊アリ施餓

鬼等アリ日記粉失ス

八月大

十日信長父子岐阜ヲ立テ越前國朝倉義景

殘黨有テ每度一揆ヲ發スニ依テ今日岐阜

ヨリ江州觀音城ニ著陣ス屋形病氣甚ニ依

テ對面セスト也

十二日信長信忠江州ヨリ越前へ進發十四

日敦賀ノ津ニ著陣是ヨリ一揆ノ面々夕テ

コモル城々ヲ改メテ軍伍ヲ定ム

越前國

一 虎杖城下間和泉守七百餘楯籠

一 木目峠城石田西光寺五百餘タテコモル

一 鉢伏城阿波賀三郎兄弟二百五十餘タテコモル

一 今条火燧兩城下間筑後守六百騎タテコモル

一 スイ津城大鹽圓強寺三百タテコモル

一 河野新城若林長門守父子四百騎タテコモル

一 府中龍門寺城三宅權之丞三百餘タテコモル

右此通國人訥人有テ委夕味方ニ知ルナリ

澤田民部少輔ヲ屋敷ヨリ信長ニ付テ越州

ヘヤリ玉フカ彼澤田カ覺書ノ内ニアリテ

此ニ記ス

十四日屋敷ヨリ磯野丹波守阿閉淡路守同

孫五郎馬淵源太郎後藤喜三郎ニ五千七百

ヲサシソヘ越前信長備ヘツカハシ玉フナリ

同日午剋ニ又山崎源太左衛門池田伊豫守

ニ二千三百騎ヲサシソヘ信長加勢ニ屋敷

ヨリツカハシ玉フ山崎池田二人ニ屋敷郷

扇ヲ玉ル

十五日子剋ニ河野城落ル十六日府中龍門

寺城落ル十七日ニ信長府中龍門寺本陣ヲ

スユル

廿三日信長一乘へ本陣ヲ移ル不殘越前

退治ナリ

廿六日信長ヨリ使節江東ニ至テ越前退治ノ

ヤウス屋形へ告來ルナリ本日記ニ委可有ナリ

九月小

二日信長一乘ヨリ北庄へ本陣ヲ移ニ軍忠
ノ面々ニ賞ヲ行ナリ
廿二日信長加賀國へ乱入廿九日ニテニ加
賀不殘退治アルナリ

十月大

四日信長加州ヲ立テ越前ニ入其ヨリ江州へ來

十三日ニ信長觀音城へ上テ屋形ニ對面ス

當國ヨリノ加勢ノ面々ニ信長越前ニツイ

テ加領ヲ與フナリ屋形大悅スト云

廿八月朝日藤九郎非義アルニ依テ屋形池田
伊豫守ニ仰付テ西光寺ニテ切腹仰付ラ
十三十一月小
十三日越前守人朝倉刑部大輔秀景江州ニ
來テ屋形ニ扶助ヲ請ル屋形甚アワレムナリ
廿日兵主太神官ノ神主式部大夫非義ノ事
ニ付テ追拂有テ佐々木宮ノ神主權守秀成
カニ男右京亮ヲ兵主ノ神主ニ仰付ラル彼
兵主大社ニ依テ右京亮ニ諱字ヲ玉ツテ秀

國ニ仰付ラル右ハ兵主神主カ家記ニアリ
ニナリ本日記ナシ依是此ニ入ル

十二月大

十一日池田伊豫守ニ屋形諱字ヲ玉ツテ秀
政ニ成シ玉フ越前合戦ニ軍忠アリシニ依テ
十リ廿日信長内大臣ニ任シ玉フ

天正五年

正月大

三日辰剋當屋形ノ御曹司誕生ナリ鶴鶴ノ

有^{アリ}御^ミ傳^ツ旗^ハ頭^カ等^ラ不^ス殘^ク觀^ミ音^ミ城^ノニ出^デ仕^ス屋^ノ形^ノ年^ノ
夕^タ个^ケ玉^ヒ其^ノ上^ニ近^キ年^ノ病^ノ氣^ニテ御^ノ當^ノ家^ノ既^ニ絶^ト
スル所^ニ御^ノ世^ヲ繼^リ出^テ來^ル玉^ハハ御^ノ一^ノ門^ノノ喜^ニ悅^ト
家^ノ來^ル等^ノノ悅^カキリナシ
七日^ニ當^リ御^ノ曹^ノ司^ノ佐^メ々^々木^ノノ官^ニへ社^ノ參^ル屋^ノ形^ノ病^ノ氣^ニ
ノ間^ニ御^ノ名^ヲ代^リトシテ進^ミ藤^ノ山^ノ城^ノ守^ル平^ノ井^ノ加^ノ賀^ノ守^ル
等^ノ彼^ノ宮^ニへ伺^ヒ公^ノ申^スス其^ノ外^ノ旗^ノ頭^ノ中^ニ一^ノ人^モ不^ス殘^ク
供^フ奉^フス再^ヒ御^ノ當^ノ家^ノ繁^ク昌^クノ初^ニ成^ルへト覺^ルユル
力^ヲ若^キ公^ノ官^中ニ於^テ御^ノ名^ヲツク龍^ノ武^ノ御^ノ曹^ノ司^ノ

トソ申^ス奉^ル是^レ佐^メ々^々木^ノ大^ノ祖^ノ神^ノノ御^ノ幼^ク少^クノ御^ノ
名^ヲナリトテ代^リ々^々當^ノ家^ノノ嫡^ノ領^ノ付^ル玉^ヲフト云^フ
十五日^ニ岐^ノ阜^ノ信^ノ長^{ヨリ}使^シ節^ヲ丹^ノ羽^ノ五^ノ郎^左衛^門
ト云^フ者^ヲ以^テ屋^ノ形^ニへ狀^スアリ其^ノ旨^ハ信^ノ長^ノ事^ニ
皇家^ノ守^ル護^ノノタメ京^ノ近^キ所^ニ居^ル城^ヲ仕^ス度^ニ十^ニ
リ江^ノ東^ノ安^ノ土^ノ山^ノ内^ニ所^ニ望^ミ仕^ス度^ニ處^ニ十^ニリ左^ノモ候^ト
ナラハ美^ノ濃^ノ國^ニテ兩^ノ郡^ノ屋^ノ形^ニへ參^ル可^ク申^ト
ノ事^也屋^ノ形^ノ信^ノ長^ノ使^シ節^ヲ御^ノ寢^ノ殿^ニへ召^シテ仰^ル
ラルハ吾^ノ近^キ年^ノ中^ニ風^ニテ行^キ歩^ス不^ス可^ク度^々ノ合^ス

戦ニモ自ラ立事ナケレハ旗頭等ヲ信長下
知ニ付テヤルナリ吾此世ノ者ニアラサレハ
何夕ニ成共信長居城致度所ニ居候ヘトノ
事也使節五郎左衛門涙ヲナカスナリ信長
聞テ大キニ悦ストナリ
此年安土山ニ信長城ヲ作テ居城申サレナリ
毎日屋形へ使節ヲ以テ御病氣ヲウカ、イ
申サレナリ信長ノタメニ八屋形ハ聳ニテ候
へ共元來信長斯波家人ナルニ殊外屋形

土山 八月大

十八日大坂付城定番ニ有ケル松永彈正少
弼通秀カ息右衛門佐逆心シ大坂表ヲ引拂
申ノヨシヲ云テ松永方ヨリ斷書江東へ來
ル使節鳥本ニテ馬淵源右衛門家盛ニ仰付
テ屋形討セラル信長觀音城へ移リ玉イテ
屋形ト松永退治ノ評定アリ
十九日松永父子ハ太和國信貴城へ引籠テ
逆心ノ色ヲ立ルノヨシヲ今日大坂表ヨリ

重テ注進ス

廿五日信長ヨリ宮内卿法印屋形ヨリ平井

加賀守ヲ差越テ松永事元來忠ヲ存ノ處ニ

何ノ事ニ依テ如此逆心有之ヨレヲ問尋テ

種々ナタメラル雖然松永終ニ合点セス兩

使江東ニカヘ元々外來者ヨリ國邊東へ來

九月小本藩門出致シテ大敗者ト云

廿六日岐阜城ヨリ信忠公三万五千ニテ安

土山へ參玉フ信長軍評定アツテ同廿八日

ヲ尊敬致サルナリトカク信長表裏第一ノ

大將也信長ノコトクニセスハ當代ノ天下

ハ治難キ事也ト武ニ達タル老人共申候ナリ

安土ノ信長ヨリ使節ヲ以テ今度若公誕生

ヲ悅申サル使ハ明知日向守光秀ト云男十

リ種々ノ送進アリ

十七日信長上洛ス紀伊國退治ノタメナリ

江州ヨリモ屋形御代官トシ進藤後藤ノ兩

藤上洛シ彼表へ向フト云

廿五日信長觀音城ニ移テ若公ヲ養君ニ致
スヘキトノ事ナリ屋形ノ曰吾重病ノ上ハ
イカヤウニモ信長ヲ頼三玉フトノ事ナリ
信長此時ハヤウク天下ノ主ノ相アラハレ
ケルト申ナリ當御曹司ノ母公ハ信長ノ御
女ナレハ御孫初ナリトテ信長不斜大悦ナ
リ此母公ハ信長ノ兄ニ信廣ト申ノ女ヲ信
長養テ屋形ヲハ掣ニ取申タリ
二月ヨリ七月ニテノ日記ナシ本日記尚可有力

ニ安土山ヲ諸勢打立屋形ヨリハ進藤山城
守後藤喜三郎阿閉淡路守磯野丹波守池田
伊豫守目加多攝津守乾甲斐守伊庭采女正
建部源五郎榑崎太郎左衛門山崎源太左衛
門京極長門守高吉澤田民部少輔等ヲ松永
退治トシテ信忠ノ後陣ニ上セラル
廿八日ノ夜ヨリ大彗星坤方ニ出ル長サ七
八間ホト也至十月光輝百里ヲカ、ヤス
十月大熱下森無葉多所人

朔日松永カ旗ハタ下森海老名ニホ兩人河内國カウチ片岡
城シロニユモルヲ細川ホシカ兵部大夫藤孝父子フチノカ明知
日向守光秀ミツホテ筒井順慶トウヅク同伊賀守進藤山城守
後藤喜三郎コトウ等責落セメス藤孝二子ニシ先陣マサキタリ
八月ヨリ信貴城シノギヲ責カ、ル
十日ノ夜城中ニ逆心ギャクシンノ者出來テ東ノヤク
ラニ火ヲカクル松永父子シノギ自害ジカイスルナリ先
年燒南都大佛殿ミナミツツ其月其日ヒサヒテ父秀於信貴城シノギ自
害シノギ如合符カヘカヘ

十一日大洪水地震同日佐々木山内對馬守
高義頓死ス屋形ノ氏族シラガタリ

十三日信長信忠其外ノ面々オモオモ太和國ヨリ上
洛ス

十七日安土アソチヘ信長カヘリ玉フ屋形ノ人數ヒト
同ク十八日ニ觀音城クワンオンヘカヘリ來ル

廿四日羽柴筑前守秀吉ニ信長幡別ハシ一國ヲ
與フ幡摩内五箇イタ所未信長手ニ入ズトイヘ

共如此ヒト二氏大

共收十二月大

四日大洪水正箇有未詳得往二入六十月六

大四日大樂流清卷漆結三

風心平八身一歸音機八

江源武鑑卷第十七終



丙辰年丁酉月吉日

甚采利普

平一廿大邦水此象同日出之木山

刊版

